

1 2 期 生演奏を楽しむ科

日 時：2024年11月8日（金）

テーマ：伝統芸能の魅力① 箏

講 師：片岡リサ先生

共演者：橋本桂子先生



片岡リサ先生

1. 箏と琴 文字の違いについて

箏・・・13弦で箏柱（コトジ）を使う 右手に箏爪

琴・・・7弦・琴柱はない 素手ではじく

中国には有るが日本では使われていない

現在の日本では琴とかいても箏をさす

2. 琴の歴史

◇奈良時代（8世紀）に中国大陸から伝来上流階級社会で広まる

◇武士が台頭すると「能」が主流となり箏は不人気、寺院などで伝承

◇江戸時代、八橋検校が現在の箏の基礎を確立する 平拍子を考案し

「六段の調」を作曲する

3. 三味線の伝来

16世紀半ば以降に中国大陸から琉球を経て堺に伝来？庶民に広がる

歌舞伎・・・長唄 清元 常磐津

地歌・・・箏と合奏 盲人の男性が中心の音楽

踊り（舞）の伴奏

文楽・・・義太夫

津軽三味線

浪曲の伴奏など

4. 演奏



三味線の説明をする両先生



17弦の箏を演奏する橋本先生

◇さくら（箏：片岡先生）

◇六段の調（箏：片岡先生）

◇地歌夕顔：菊岡検校作曲（箏・歌：片岡先生 三絃：橋本先生）

◇瀬音：宮城道雄作曲（箏：片岡先生 十七弦：橋本先生）

◇六甲おろし（箏・歌：片岡先生）各種楽器の持ち回り演奏依頼があったそう

5. 質疑

Q. 箏の流派はどうなっている？

A. ふたつある

生田流：生田検校が起こし関西で広がる 四角爪で横座り

山田流：山田検校が起こし関東から東 丸爪でまっすぐ座り

6. 感想

伝統芸能のイメージで年配の講師と思っていたがお若い先生で驚いた。

講義内容も分かりやすく演奏も迫力があり素晴らしかった。

邦楽のもつ感動はやはり心にしみるものがある。

心に残る講義でした。

落語が古典と新作の両面で活動しているように、この伝統芸能もこのような若い演奏家が古典と現代音楽を取り入れた楽曲の両面で新境地を開ければと思います。



宮城道雄作曲・瀬音を十七弦で演奏

【広報担当 T・I】